平成 28 年 3 月 18 日、19 日　第 9 回白砂青松再生の会出雲大会

1．　18 日　朝 6 時 30 分に小浦街道ホンダクリオ前を新井、樫原、印南 3 氏を拾って出発、車で出雲市西出雲朱鷺会館へ。約 410ｋｍ、12 時半に到着。

講演会	懇親会	ホテル SUNLUBE

2．　19 日バス 2 台で浜山公園、外園海岸へ、出雲大社で昼食後出雲大社の松とケナゲの植樹

浜山公園	浜山公園の松	間伐された切り株
海岸の小学生が植えた松(間伐必要)	現地のボランティアの説明	一部間伐をした場所
外園海岸の松の植林	松の植樹に集まった人たち	炭を入れて植樹

植樹後菌根金を散布

植樹後記念写真

防風柵

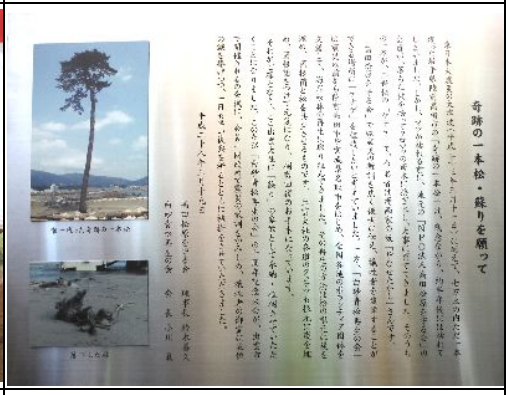
海岸で使われていた樹幹注入液

出雲大社の参道の松

出雲大社の参道の松

報告祭に向かう

ケナゲと説明する佐藤氏



説明板

出雲大社で記念写真

昼食は出雲そば。昼食後に出雲大社で一本松の枝を挿し木した松の奉納奉告祭と植樹。
15 時 30 分に帰途に着く。帰りは行きと同じ出雲道、米子道、中国高速から行きとは違って阪神高速、第二阪和道で帰る。和歌山には 21 時 40 分頃に到着。次回は大磯、次々回は三保の松原。

奇跡の一本松・蘇りを願って

東日本大震災の大津波（平成二十三年三月十一日）に耐えて、七万本の内ただ一本残った岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」は、残念ながら、約半年後には枯れてしまいました。しかし、マツが枯れる前に、地元の「NPO法人高田松原を守る会」の会員が、落ちた枝を拾ってクロマツの苗木に接ぎ木し、大事に育ててきました。そのうちの一本が、二世松の「ケナゲ」で、命名者は漫画家の故「やなせたかし」さんです。

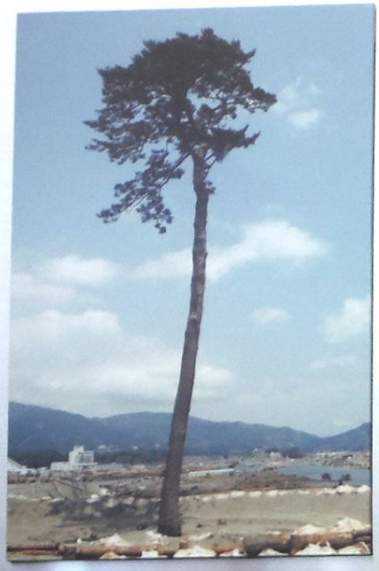
「高田松原を守る会」では震災の教訓を広く後世に伝え、犠牲者を追悼することができる場所に「ケナゲ」を植栽したいと考えていました。一方、「白砂青松再生の会」は震災以前から陸前高田市や宮城県名取市をはじめ、全国各地のボランティア団体を支援して、海岸松林の再生に取り組んできました。その再生の方法は松の根元に炭を埋め、菌根菌と松を共生させるものです。出雲大社の参道のクロマツも根元に炭を埋め、菌根菌をつけて元気になり、樹勢回復のお手本になっています。

それがご縁となり、ここ出雲大社に「蘇り」の象徴として奉納・植樹させていただくことになりました。このたび「白砂青松再生の会」の十周年記念大会が、出雲市で開催されるのを機に、会員一同改めて震災の教訓をかみしめ、犠牲者の御霊に哀悼の誠を捧げつつ、一日も早い復興を祈るとともに植樹をさせていただきました。

平成二十八年三月十九日

高田松原を守る会　理事長　鈴木善久

白砂青松再生の会　会　長　小川　眞



唯一残った奇跡の一本松

落下した枝